

かがやく

— あなたも、わたしも —

特集 **男女共同参画フォーラム**
— 我孫子市男女共同参画の
条例制定に向けて —



連載 **かがやく個性たち**

いきいきと男々に輝く わが我孫子



2005年6月26日(日)、アピスタにおいて、男女共同参画条例の制定に向けて、講演とフォーラム「いきいきと男々に輝く わが我孫子」が開催されました。市民も参加したパネリストのお話が好評でした。その概要を紹介します。市では男女共同参画を着実に推進するため、わかりやすい条例の制定準備を進めています。

基調講演 「男女共同参画の意義」

川村学園女子大学副学長
川端 香里さん

国連を中心に、男女平等は世界的な社会運動となっており、日本でも「男女共同参画社会基本法」が制定された。男女共同参画というのは、自治体、職場、家庭、地域のあらゆる場所で、政策決定を含めて、男性と女性が力を合わせて責任と喜びを分かち合うことだ。国際的に見ると日本は遅れていて、女性の研究者・科学者の割合は11.6%で、アメリカ32.5%、フランス27.5%と比べてかなり低い。

女性が自立すると家庭が崩壊する、少子高齢化もそれが原因であるという説がある。しかし北欧やフランスなどの先進国では、研究や専門的な職業に携わる女性たちを支援する仕組みが整った結果、人口増に転換しているという。

子育て、教育に男性の参加を

子どもは3歳になるまでは母親が育てないと、非行に走るとか発育不全になるという説があるが、そうではない。確かに愛情は必要だが、必ずしも母親である必要はない。むしろ父親の不在が教育にゆがみを与え、日本全体のゆがみになっているのではないかと最近では理解されてきている。

また子どもにとって、保育園で同年代の子どもたちと付き合うことがいかに教育上重要か。母親と子どもが密着しているのは、逆に精神的なストレスのもとになることは間違いない。

固定的な役割分担から女性のエンパワーメントへ

歴史的には、男性が「国家」を動かしてきた期間が長い、縄文時代には

労働は男女平等で、むしろ母系制の時代だったことは証明されている。限られた男性中心の時代に社会的文化的ないろいろな固定観念ができ、宗教も同様に、女性が弱いと言いつづけてきた。

日本でも長い間性別役割分担ということが当然と考えられてきた。しかし、自分たちの能力に自信を持ってきた女性たちの活発な社会への進出ということがあって、今日のような大きな動きが出てきているのだと思う。

男らしさ女らしさから人間らしさへ

最近、男らしさ女らしさを重視する議論が盛んだが、もっと大事なものは人間らしさだ。また個人を優先するあまり家庭をないがしろにして少子化になるという議論だが、個人と家庭というよりも、男である女であることに関わらず人間らしく生きることが基本であることが、そういう議論の中で忘れ去られる傾向があるのは注意すべきだ。このように深く考えていけば、女だからといって差別されることの人間としての屈辱感を、今まで多くの女性たちが感じていたことに気付くだろう。

一方、男性は逆な意味でのプレッシャーがあり、強くなければならないと刷り込まれてしまう。家庭内暴力の問題も、男は力、女は弱いという刷り込みの中で起こることだ。

男女共同参画条例の制定の意義

教育の場では人間らしさを前面に出し、男女の差はないと教えているが、実際の社会の中で形にならないと効果を持っていない。だから男女共同参画条例の制定は、地域全体、学校、職場、家庭までを含んだ精神的な基礎を作るという意味で非常に重要である。

我孫子市は、すでに男女共同参画都市の宣言もして、実際の施策や具体的な行動が行われ、各地から注目を浴びている。その我孫子市で条例ができることは、たいへん意義がある。

フォーラム 「男々に輝くまちづくり」

- ・パネリスト
川端香里さん
吉武保子さん(千葉県女性センター相談室相談員)
関こずえさん(市内在住)
野田泰造さん(市内在住)
- ・コーディネーター
福岡浩彦 我孫子市長

市長 まずお1人ずつ、男女共同参画についての日ごろのお考えをどうぞ。

吉武 女性センターの相談員をしていると、相談の中で個人の問題は社会の問題であることに気づく。女性の相談者の多くが抑圧された中で相談してきたときに、大きな悩みを抱えているのが見える。DVの加害者である男性は精神的暴力に気づかず、被害女性は自分に自信が持てず、女性の自己実現が阻まれている。お互いの立場を尊重することが大切だ。

関 男女共同参画を意識したことはない。就職してから差別を感じたことはなく、先輩たちも子育てしながら勤めていた人が多いので、性別にとられないで能力を発揮できる男女共同参画はとても大事だ。

野田 私は妻と娘が1人、もうすぐ2人目が生まれる。家庭人として育児も家事も共同でやっているが、理想と現実は一貫しない。会社は制度が充実していて、さらに次世代育成法の趣旨にそって進ん

だが、育児休暇のとり方など運用に課題があるようだ。男女共同参画に対する市民の理解も大切。

川端 個々には力をつけているように見える。特にお2人のお話は心強い。うちの学生が学校へ来て初めて本当に話を聞いてもらえる場ができたという。日本の多くの家庭で、親子の関係、夫婦の関係に問題があるのかもしれない。様々なレベルで地道な努力が必要だ。

市長 男女共同参画の理解は確実に進んでいる。男らしさ女らしさは強制するものではなく、その人の内面から出てくる自分らしさでいいのではないかと。

吉武 相談の現場でも家族の関係など閉鎖的な空間で悩んでいる人が多い。女性が自分を肯定できるためには安全で安心な環境が必要だ。

野田 育児休暇を取る男性は少ない。昇進の遅れや技術の遅れへの不安がその理由だと思う。短期のファミリーフレンドリー休暇を取る人はいる。私の家事の分担は週末の朝食や洗濯、子どもと遊ぶことなど。

吉武 相談者が高齢の場合、夫に家事ができないと解決の妨げになる場合がある。男性も女性も自分で生きていく能力は大切だと思う。

川端 最近報道されている、女性の科学者、研究者が少ないのは、親たちのほうに女性に科学は向かないという偏見があり、縛っている。今後は地域でその刷り込み、ゆがみをなくす啓発してほしい。

………会場の質問に答えて………
「ジェンダー平等はわかったが、少子高齢社会におけるジェンダーと出生率1.29について聞きたい」
吉武 働いているから出産しないということではないと思う。

関 祖母や両親を見ていて、私たちが結婚して、家庭をつくりたいと思う環境があることが大切だと思う。

野田 社会に出ている女性にとっては大切なこと。男性のサポートを進める必要がある。

「男らしさ女らしさは人間としての教養と思う。強制するものではないと思うが、任せておいていいか。教育との関係は？」
川端 日本では昔から男かあるべし、女かあるべしと教育されてきた。そうではなく人権をスタートに、それぞれの人が自分の考えをもつべきと考える。男女共同参画の目的を「性差をなくすことである」という誤解がひとり歩きしている。性差は存在するが、強調しすぎると昔に戻りそう。

野田 教育としつけの課題は感じている。夫婦がいつしょに考え学んでいる。そんな中から子どもが自分らしさを発揮し、個性を伸ばしてほしい。

関 男らしさ女らしさは自分で築くものだと思う。言葉自体は間違っていると思わない。にじみ出るやさしさのようなものだと思う。

吉武 男らしさ女らしさという考え方を押し付けられ、苦しんでいる人のことを忘れてはいけない。人に対する思いやりは大切。また、DVなど人権の侵害については、弱い立場の人を保護するために、きちんと教育する必要がある。

市長 お互いに尊重しあうことの大切さや、社会の動きを子どもたちにきちんと伝える必要がある。自分らしく生きた結果、「らしさ」が生まれるといいと思う。

「我孫子市が条例を作るなら、わかりやすいものにしてほしい」
吉武 みんながわかる言葉にする。目標をきっかけ、達成度や問題箇所がよくわかるものになりたい。

市長 条例は市の行うことを記述することが多いが、ベースとなる市民の権利と義務をきちんと明記し、抽象的な努力目標でなく、具体的なものになりたい。

アンケートより抜粋

- ・パネリストは様々な分野・世界を代表していた。市民の代表としての2人の意見が貴重でした。
- ・それぞれのパネリストが自分の経験を交えての具体的な等身大のコメントに親しみを感じました。
- ・このようなフォーラムは女性の参加が多いのが現実だが、男性にももっと参加してほしい。
- ・家庭・学校・地域社会が協力してとり組むことが大切。



今回は、市内で教習所指導員として活躍している荒井広子さんと、特別養護老人ホームで介護員として働いている梅澤大治さんに、登場していただきました。



荒井広子さん
(我孫子自動車教習所指導員)

■今年で指導員になって13年、我孫子に来てからは4年。車の運転が好きだったので、教習所の採用試験を受けたら、合格したそうですが、指導員としてのやりがいとは、何ですか？

さまざまな年代の方たちに運転技術を教え、その方たちが少しでも早く運転できるようになり卒業していくことと、卒業生や教習生から街中で「今晚は」「お疲れさまでした」などと声を掛けられたり、卒業してから免許が取れましたと見せに来てくれるとそれは嬉しいものです。

■仕事を離れたら、どう過ごしていますか？

根っからの車好きです。ドライブ、それもモーターバイク(現在は600CCに乗っている)で、ツーリングなどを楽しんでいきます。家にいるときは一人娘と料理をしたり、ショッピングに出かけたりします。また、遅番の時に娘が食事の支度をしてくれていてくれると、とても助かります。

■後輩たちへのエールを

この教習所では、男性指導員が25人、女性指導員は3人ですが近い内に1人増える予定です。最近教習生の男女比率は半々に近い感じになってきています。自分自身、色々な人との接触が苦にならない性格なので、この仕事が一番向いていると思います。人と人との接し方を笑顔でもって明るく接していけば、相手も打ち解けて素直に理解してもらえると嬉しいです。少し不安に思う時でも、自信を持って対応すれば理解してくれると思って毎日を過ごして欲しいですね。



梅澤大治さん
(特別養護老人ホーム アコモード 主任介護員)

■介護員の仕事をやるきっかけとなったことは何ですか？

この仕事に就いて4年になります。以前は営業関係のサラリーマンでしたが、家族が体調を崩して入退院を繰り返すようになり、介護に大変苦労しているのを見て、自分で何とかできないかと思いヘルパーの資格を取りました。幸いにも症状も回復したので当施設で働くようになった訳です。

■介護の仕事でのやりがい又はご苦労はありますか？

介護は、何事においても笑顔が求められます。自分と利用者との日常の会話をする時など、素直な気持ちで接することが大切だと思います。お礼を言われたりすると、この仕事のやりがいを感じます。やはり利用者の方は、家族の方が面会に来ると、われわれに対するのとは、笑顔が違います。

■仕事を離れた時どう過ごしていますか？

大学時代にクラブ活動で、合気道をしていましたので、時間があれば学校に行き後輩たちと汗を流します。また、車の運転が好きなので、気分転換にドライブを楽しみます。良い意味での頭の切り替えを図るようにしています。

■後輩へのエールを

介護は嫌々やる仕事ではありません。本当にやる気のある方たちの集まりだと思っています。責任も重く辛いことも沢山ありますが、それだけにやりがいもありますし、自分を磨いてくれる仕事だと思っています。

我孫子市男女共同参画条例の 素案にご意見をお寄せください



8月12日に男女共同参画社会づくり推進懇談会から、条例の素案の提言書が市長に手渡されました。さらに多くの市民の皆さんの意見を条例案づくりに生かしていくため、この素案についてのご意見をお寄せください。



福嶋市長に提言書を手渡す
推進懇談会の川端会長と吉武副会長

素案の内容は、市のホームページ、アビスタ、各行政サービスセンターで閲覧できます。また、郵送・ファックスも行いますので、必要な方はお申し出ください。

ご意見は郵送、ファックス、Eメールのいずれかで下記へお送りください。
なお、ご意見への個別の回答はしませんので、ご了承ください。

■受付期限：平成17年10月7日(金) ※郵送の場合は必着

■提出先：男女共同参画担当 〒270-1192 我孫子市我孫子1858番地

TEL.7185-1111 / FAX.7185-1753 / Eメール danjyo@city.abiko.chiba.jp

編集後記

▶暑い夏にこの後記を書くのは2度目です。それにしても、今年の暑さは、あまり記憶にないような気がします。社会の変化が目まぐるしいのが原因かなと思ってみましたが、それにしても暑い日が続きますね。(貴)

▶都市宣言をしてから、ようやく煮詰まってきた我孫子市の条例ができます。両性のどちらもが人として尊重され生きやすい世の中を次代に繋げていきたいです。(H.S)

▶我が家には小2と小4の息子がいます。テレビコマーシャルを見ながら、既にお年頃の兄が製品と無関係な女性の「魅力」を意識しているのに対し、弟のそれは「損得なし」です。どちらの場合も上手に誘導しなくては……(父 鈴木)

▶男女共同参画ということばは、むずかしく感じられるかもしれませんが、端的に言えば「男女がお互いの人権を尊重しあう」ことであり「思いやりをもつ」ということではないのでしょうか。(T&M)